

9月 <small>例会</small> 山行報告書 <small>(個人)</small>		報告者 江頭 報告日 10月2日	参加メンバー CL; 亀山, SL; 町田, 藤田, 江頭
山域 奥美濃 山名 粕川西谷射能山	山行日 06年 9月 23日(土)		

山行目的 奥美濃の沢を楽しむ コースタイム(天候:天気図記号)

配布先 集会:10 山行:1 リーダー 原紙:集 会担当者	ルート図(地図を見て正確に)  2.5万分の1地図:美東・横山	9月22日(晴) 20:30 N1駐車場集合 23:00 飯場下P幕営 24:30 就寝  	9月23日(晴) 06:00 起床 06:50 入渓(左/中又) 07:30 3m+5m 2段滝 07:50 両門の滝 (左/中又合流点) 08:40 トンネル滝 小 08:45 トンネル滝 中 08:50 トンネル滝 大 09:10 15m 2段滝 10:05 射能山(ぶんげん) 昼食 10:50 射能山発 13:50 P下小橋着(右又) 15:30 薬草風呂 (かすがモリ村) http://www.ginet.or.jp/ 18:30 装備返却 19:00 解散
--	---	---	---

< 遡行報告 >

前夜千疋集落から、粕川西谷を遡り、林道脇の飯場から少し戻った右カーブで適地を見つけテント設営。涼しげな虫の声を聴きながら、軽く飲んで就寝。翌朝、下で車の停まる音がして、暫くするとこなれた身支度の「柎の実拾い」の方が現れた。「ここは岩が多くて面白いよ」と軽い身のこなしで颯爽と森に消える。我々もそそくさと準備を整え林道から森へ。程なくして流れが現れ、入渓。流れは透明感に満ちていた。しかしどうも樹の枝が不自然に多くある、そして妙に明るく感じるのは、どうやら両脇の尾根上部を伐採しているためらしい。遊びに来る者の誠に勝手な言い分は、「ちょっと残念」。

進むにつれて深い緑と見事な溪流美を見せてくれ、遡行に集中。3m+5mの2段滝に出くわす。直登のシャーククライムはあとのお楽しみにして、素直に左を巻いた。その後は程よいタイミングで小滝やら、一枚岩のナメ滝やら、言われた通りアトラクションに事欠かない。さほど水は冷たくなく、汗ばみそうな体が足から冷やされて丁度いい塩梅である。パッと沢が開けて二又(両門の滝)に出た。一本立てながら、要所のひとつである左又と中又の合流地点と判断、右の滝(中又)を進む、町田先輩に続いて滝を攀じるもホールドが見つからず四肢に力が入るが、何とか上の草付きにしがみ付いた。

この先水量は半分となり、源流の雰囲気が出る。岩穴を流れが落ちるトンネル滝だ。ここはシャワーを満喫する。誰が呼んだか「胎内くぐり」。ご丁寧に小、中、大と順にある。安全登山を念じた。気付いてみればこの辺り、動物の足跡多く、我々はまさに余所者。いよいよ源頭が近いのか、流れはか細くなる。沢の分岐毎に町田先輩、コンパスで丁寧に方角を見定める。私は見当で良い気がしたが、「詰め手で手を抜いてはならぬ」と諭して戴いた。ついに水が消え、先の見通しが全く利かないヤブに突入。しばし格闘して、寸分たがわず県境尾根最低鞍部へ飛び出した。刈られた尾根を南に3分ほどで射能山。亀山先輩のラーメンを全員で戴いて遡行完遂を祝した。



射能山(ぶんげん)山頂にて

< リーダー所見 >

昨秋、全豊田登山大会で沢登りコースを希望したところ、この揖斐川支流の粕川西谷の沢を準備されており、右股を遡行した。その時、次は射能山(ぶんげん)へダイレクトに突き上げる中俣の遡行をやりたいと強く思った。そして今回、幸運にも良きメンバーに恵まれ、予想通り素晴らしい沢登を実施させて貰った。幸甚の至りである。

確認
(リーダー)

 作成
(報告者)
